認定特定非営利活動法人 日本雲南聯誼（れんぎ）協会
【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階
Tel：03-5206-5260　Fax：03-5206-5261
Email：yunnan@jyfa.org　URL：http://www.jyfa.org/
【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室
Tel.+86-871-63311468　Fax.+86-871-63320658
http://www.facebook.com/NPO.JYFA　@jyfa
ブログ 雲南の郵便屋さん 検索
編集・発行人　初鹿野 惠蘭
印刷協力　昭和情報プロセス㈱　㈱技術評論社／デザイン Hope Company

Japan Yunnan Friendship Association

彩雲の南

第 50 号

会報

発行日　2014 年（平成 26 年）8 月 15 日

「50の小学校プロジェクト」のこれから

◀ミャンマー国境地域・徳宏の元気な子どもたち

日本雲南聯誼協会は設立以来、雲南省25の少数民族に2校ずつ小学校を建設する「50の小学校プロジェクト」を活動の最大の柱として取組んでまいりました。この間、東日本大震災などさまざまな出来事がありましたが、今年ようやく24校目が完成しました。皆様のご理解とご支援にあらためてお礼申し上げます。

◀学校周辺は道路も未舗装。雨が降ると大変です

2011年の東日本大震災の際には、「今度は日本の皆さんを助けたい！」と雲南省からたくさんの義援金が寄せられました。協会は、義援金を被災地の小学校に届けるとともに、雲南省の支援小学校との交流を橋渡ししてきました。また、教育改革の一環として、教職員を大規模校に集中する学校統廃合が進められましたが、山間部には整備されない学校がまだまだ残っています。

先日、初鹿野惠蘭理事長及び協会会員が、徳宏タイ族チンポー族自治州の支援候補校を視察しました。徳宏州はミャンマーと国境を接し、訪問した山間部は少しの雨でも車が通れなくなるほど不便な場所です。今年5月の地震で校舎が危険家屋に指定されるなど、小学校にも被害が出ていました。子どもたちは仮設テントに寝泊まりし、プレハブ校舎で授業を受けており、子どもたちに夢と希望を与えたいという思いを新たにしました。

協会は、14年間の活動で得た現地政府や関係者との絆をもとに、「50の小学校プロジェクト」を積極的に進めていきます。今後もご支援のほど、よろしくお願いいたします。

▲小学校を視察中の協会会員

徳宏の小学校に通う少女▶

▲仮設テント。ベッドは無く、簡易な板の上で寝泊り

現地協力（順不同・敬称略）：徳宏州帰国華僑聯合会主席・徳宏州人民政府僑務弁公室主任・趙冬梅、盈江帰国華僑聯合会主席・盈江人民政府僑務弁公室主任・雷金升、政協徳宏州第十一屆委員会常委・徳宏州海外聯誼会副秘書長・徳宏州帰国華僑聯合会副主席・徳宏州人民政府僑務弁公室副主任・尹朝紅、徳宏州人民政府僑務弁公室・孔勒当、徳宏州人民政府僑務弁公室・何朝虎

2009年建設 支援第19校・老木壩（ラオムーバ）小学校の今

東京本部と雲南支部のスタッフが7月上旬、協会支援第19校、老木壩（ラオムーバ）小学校を訪問しました。この地域の5～6年生は、少し離れた中心小学校へ寄宿し勉強することになり、現在は1～4年生が学んでいます。協会の支援後、老木壩村は中央政府による貧困地域支援の対象となり、協会の支援で建てた校舎の隣に新校舎が建てられました。

農村地域では都市部へ出稼ぎに行く若者が多く、子どもの人数が減っているそうです。このような少数民族地域の変化に対応しながら、支援を考えていく必要があります。

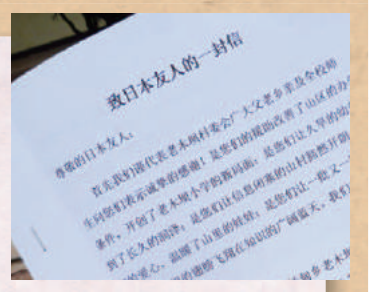
一行は図書室も視察しました。図書室がある！と感心したのもつかの間、実際には、ほとんど本はありませんでした。特に子供向けの本は少なく、寄付された大人向けの本がほとんど。寄付による本の多くが中心小学校へ送られてしまい、老木壩のような僻地の小学校には届かないと校長先生が話していました。少数民族地域の教育の充実をめざして、今後もアフターフォローが欠かせません。

（ボランティア協力・陸欣妍、李然、東京本部事務局・吉成絢香、雲南支部・林娜、白瑪次木　敬称略）

図書室。本があるのは一部の本棚だけ

▲卒校長先生（右）と雲南初訪問の新スタッフ吉成（左）

皆様の愛が育んだ夢の翼で、知識という広大なる青空へ・・・



—老木壩（ラオムーバ）小学校校長・卒先生より—

日本の皆様の援助が、閉鎖的な山村の視野を広げ、子どもたちにぬくもりをもたらしました。子どもたちは夢の翼を手に入れ、知識という広大な青空へ飛びたつことができます。すべての村人と教師と学生に代わり、謹んで感謝申し上げます。

老木壩小学校は現在、教職員7人、4クラスで62名の子どもたちが勉強しています。子どもたちは5つの村から通う少数民族です。

老木壩小学校が設立されてから19年が経ちました。山岳地域の経済的な立ち遅れは、学校設立当時から教育に大きな影響を及ぼしていました。また、学校建設からわずか1ヶ月後、追い打ちをかけるように大きな地震が発生しました。教室や子どもたちの宿舎、食堂は、危険家屋の指定を受けました。子どもたちは、夏は雨が降り込み、冬は霜が降り凍える校舎に住まなくてはならず、体の弱い子どもはすぐに病気になるという状況でした。

2008年、日本雲南聯誼協会の援助で、コンクリートとレンガ造りの安全な校舎が建設されました。机と椅子、学生のベッドも揃えることができました。現在、教師も子どもたちも清潔な広い校舎で日々明るく過ごせており、教育の質も年々向上しています。全教職員がよりよい環境づくりを目指し、希望の種を村に蒔くため、充実した教育を実現しようと努力しています。

皆様の援助は私達の原動力です。遠く離れていても、皆様の温かい愛の心は、これからも確実に子どもたちに伝わっていくでしょう。子どもたちは一生懸命勉強し、優れた成績で愛の援助に応えます。老木壩小学校の明日はさらに素晴らしく、明るいものとなるでしょう。あらためて皆様の慈善事業に感謝申し上げます。

老木壩小学校の先生と生徒一同
2014年6月30日

「25の小さな夢基金」
第6期卒業生51名、新たな旅立ち

7月1日、「25の小さな夢基金」第6期生卒業式が行われ、日本から初鹿野理事長とサポーターが出席しました。3年間の感謝の思いを胸に、新たな旅立ちです。

←卒業証書を手に、笑顔がこぼれます

←「日本のお母さん」が卒業式に出席し、笑顔で卒業報告

卒業式後、晴れ姿でサポーターと交流。ここでも通訳ボランティアの大学生が活躍！

卒業は嬉しいけれど別れは寂しい、さまざまな思いに涙が止まりません

フォーラム
『未来を創る2014』
友好の花が開き、実を結ぶまで

満足に教育も受けられない貧しい少数民族の子供たちの為に小学校を建設しようと立ち上がり活動を続けてきた当協会も、中国の凄まじい経済発展によりお役御免になるかと思いきや、実際には少数民族の人々が貨幣経済の波に飲み込まれ翻弄される結果となっており、まだ当分の間は続けていかなければならないようです。

サポーターとテーブルを囲み自由交流。通訳ボランティアも大活躍

笑顔でフォーラムを楽しんでいます

そのような中、私たちは今年も「25の小さな夢基金」生徒の卒業式と卒業生フォーラムへ参加してきました。

夢基金の卒業生も既に大学を経て社会人を送り出すまでになり、4回目となったこのフォーラムも、当初は協会の活動紹介や民族間の壁を越えた友好の種を育てることが中心だったのが、回を重ねるごとに、夢基金卒業生に加え、通訳として参加している昆明市内にある5大学の先生や学生たちの間にも、その種が芽を出し始めるだけでなく、国境の壁を越え自分たちの将来を真剣に考える場として育ってきたように思えます。

日中関係は政治的にはますます溝が深まるばかりに見えますが、少なくともこのフォーラムに参加してくださっている地元大学生の面々に関しては、現状を驚くほど客観的かつ冷静に把握しており、中国に欠けているものを熱心に日本から学ぼうとする謙虚な志が見て取れ、このイベントを主催した私たちが却って勇気づけられる思いでした。

支援は善し悪し様々な影響をもたらすもので、支援活動を行う者は支援をした後の責任までも必要とされるべきです。その意味でも卒業生フォーラムは重要な位置を占めており、私たちが蒔いてきたその種から少しずつ芽が出始めたことを確認できるだけでも、これまでの努力が無駄ではなかったことを感じています。今後、その芽が育ち、花開き実を結ぶまでこの目で確かめられるかどうかは分かりませんが、それらはきっとこのフォーラムを体験した次の世代が引き継いでくださると確信しています。

協会による支援活動が縁で私たちと結びつき、これから社会へ羽ばたいていこうとしている生徒達のうち、ひとりでも多くが、思いやりの心を引き継いで新たなグローバル社会の礎となってくれるよう願ってやみません。（会員・佐々木英介）

民族衣装や浴衣がとても華やか→

参加者全員で →
夢を描いた凧作り

年に1度サポーターさんと会える大切な時間

参加者（順不同・敬称略）：初鹿野惠蘭理事長、平本美智明、佐々木英介、滝澤崇、久継智弘 、平田栄一、大﨑功雄、佐伯義博、近藤釼一、佐藤正典、下垣昭宏、丁美蘭、雲南師範大学張彦萍、楊楊、雲南民族大学 後藤裕人 、雲南大学滇池学院 高明（通訳）、雲南財経大学 肖涵予 、昆明理工大学 柳陳堅、夢基金現役生 28 名、夢基金卒業生 21 名、大学生ボランティア 27 名、山下春佳、筑切佑果、田中貴、丁美蘭さんのご友人 3 名、中洲慶子、林娜、白瑪次木、吉成絢香
主催：認定 NPO 法人日本雲南聯誼協会
協力：メディネットインターナショナル株式会社

「25の小さな夢基金」
卒業生の故郷を訪問！

春蕾クラスの卒業生・ドアン族の趙玉団さんとリス族の棟正香さんの故郷を訪問しました。二人は雲南省の西部徳宏州の出身。同じ徳宏とはいえ、お互いの家は車で5～6時間かかるので二人も初めての友達の家の訪問です。

玉団さんの家へ行く途中、路肩のぬかるみでバスが脱輪するハプニングが発生。そんな時でも会員は写真撮影に夢中でした。おまけにバスを引き上げてくれたトラックが玉団さんのおじさんと知り、みんなびっくり。玉団さんの家では、とても明るいおじいさんを始めご家族・親戚の方が出迎えてくれ、蜂蜜に漬けた甘い蜂の巣などで歓迎してもらいました。

玉団さんのとっても明るいご家族。
おじいさんおばあさんも元気です！

翌日向かった正香さんの村は、最寄りの盈江の街からでも車で3～4時間かかります。雨で山道の崩れなども心配され、政府の人が手配してくれた四輪駆動の車に分乗しました。正香さんはそんな道を通って昆明に来たんだなあと、その苦労と勉強したい想いの強さを実感できる道のりでした。

正香さんの村は最近起きた地震の震源に近く、正香さんの家も屋根にシートを掛けたり、仮設テントを張っていたりと地震の影響が残っていました。また、家の入口の脇には正香さんの成績を讃える賞状が掲げられていたのが印象的でした。

わずかな時間での訪問ですが、そこに行くことには大きな意味があります。家に机などはなく、家の手伝いもしながら、ここで懸命に勉強したんだなと実感できるからです。二人のご両親も笑顔で娘には自分の人生を生きていってほしいとエールを送っていました。二人がこれからどんな夢を描き、どんなふうに成長していくのかが楽しみです。（会員・久継智弘）

←正香さんのご家族と、参加者みんなで

キッチンでは床にしゃがんで煮炊きをします

徳宏の山道。
四輪駆動でやっと通れます

→親戚の女の子（リス族）

農村の生活が感じられます

前日に卒業式を迎えたばかりの二人。
ドアン族の趙玉団さん（左）と
リス族の棟正香さん（右）

アジア未来への人材プロジェクト

日本と雲南の学生のエネルギーで「社会貢献」! 10年で500名の青年交流プロジェクト

第1回 日本雲南大学生交流スタディツアー メンバー集合

日本と雲南の学生たちが相互理解と国際貢献をめざす「第一回日本雲南大学生交流スタディツアー」。いよいよ今月29日から9日間、9大学の大学生12名が雲南省を訪問します。

日本側のメンバー 12名は東京で6月7日に、雲南側18名は昆明で6月29日にそれぞれ事前学習会を行い、ビデオメッセージを交換しました。今回は日本の学生が主体となり、学校教育、民族文化、芸術、労働問題、環境衛生、食と交流といったテーマを決め、グループごとに取り組みます。学生たちは少数民族地域にある協会の支援小学校にも寝袋持参で3日間滞在します。出発が待ち遠しいですね。

実施にあたり、公益財団法人三菱UFJ国際財団および公益財団法人かめのり財団が、助成金事業として当プロジェクトを後押ししてくださいました。プロジェクトの成果は社会貢献に生かし、今後10年で500名の青年交流を目指していきます。

【参加者大学（順不同）】
東京大学1名、早稲田大学1名、筑波大学1名、法政大学1名、御茶ノ水女子大学1名、埼玉県立大学1名、清泉女子大学2名、専修大学3名、大東文化大学（既卒）1名
雲南師範大学5名、雲南民族大学5名、雲南大学3名、雲南大学滇池学院3名、雲南開放大学1名、雲南財経大学1名（ペー族、ヌー族、リス族等、雲南少数民族を含む）

自己紹介シートを書いて参加者顔合わせ

学生主体で取り組むテーマが決定しました

自己紹介ゲームで盛り上がりました

日本からのビデオレターを熱心に見つめる雲南の学生たち

「アジアに住むすべての少数民族の経済的自立を支援する アジア新産業創造研究会」

ソーラーライトプロジェクトリーダーからごあいさつ

facebook

ソーラープロジェクトリーダー 坂本仁さん（右）

初めまして、坂本仁と申します。私は、大学の時に太陽電池の耐久性を高める研究をしていました。この経験を生かし、太陽電池を使って豊かな未来を実現したいと思っています。そんなことを別の場所でアピールしていたところ、幹事の松田さんに声をかけてもらい、研究会に参加することになりました。研究会では太陽電池プロジェクトを立ち上げ、雲南の農村部が直面する問題を解決したいと考えています。

同プロジェクトではもう一つ、期待していることがあります。それは雲南と日本の『ハイブリッド』によって、新たな価値が生まれるのではないかということです。ハイブリッドといえば、皆さん、まずハイブリッドカーを思い浮かべるのではないでしょうか。ハイブリッドカーは、高負荷の時はエンジンを、低負荷の時はモーターを使うことで効率的な燃費を実現しています。私の研究していた太陽電池も酸化チタンと色素を組み合わせたハイブリッド材料を利用します。『ハイブリッド』とは、いくつかのものを組み合わせ、それぞれのメリットを生かすことだと思うのです。

まず、雲南の電気のない地域に太陽電池で明かりを点けるプロジェクトが動き出します。雲南の人々と一緒に活動する中で、日本・雲南双方の良いところや問題点が見えてくると思います。日雲のハイブリッドが生みだす新たな価値によって新産業を創造し、豊かな未来を実現したいと思います。

（アジア新産業創造研究会　坂本仁）

毎週金曜日に協会事務局で定例会を行い、アイディアを出し合います

雲南大学と提携を結びました

初鹿野理事長及び会員が6月30日、雲南大学外国語学院を訪れ、「アジア未来への人材プロジェクト」の提携調印式を行いました。提携内容は、プロジェクトの一環として学生の教育に協力し、将来的に教職員の研修も行うというものです。現地大学との提携は3月の雲南師範大学に引き続き2校目です。大学で学んでいることを生かし、将来国際貢献したいという若者の育成を協会がサポートしていきます。雲南大学外国語学院東語系・**饒瓊珍先生**も「**今回の提携が、中日友好に貢献し美しい花を咲かせるのを期待しています**」と話しています。

雲南大学側出席者（敬称略）：雲南大学外国語学院院長　徐志英、雲南大学外国語学院副院長　駱洪、雲南大学外国語学院日本語学科学部長　饒瓊珍、雲南大学外国語学院党委書記　董平、雲南大学外国語学院党委副書記 李紅雲

雲南大学外国語学院院長・徐志英先生（左）と初鹿野理事長（右）

今後のプロジェクトの協力関係について話し合いました

雲日国際大学生協力会 新会長就任

（左から）
前会長・張哲さん、
新副会長・李秀珍さん、
新会長・周婧怡さん

皆さん、はじめまして。私は雲南師範大学、日本語学部の周婧怡と申します。雲南省文山県出身の漢族です。今回、会長に選ばれてとても嬉しく思っています。

日本雲南聯誼協会と雲日大学生協力会は、雲南省と日本の交流のかけ橋であり、両国の教育と経済文化交流のために日々努力しています。私は日本語学部の学生として、中日両国の友好のために何か役立ちたいと思っています。また、この仕事を通じて自分自身の能力も高めたいと思います。そのため雲日大学生協力会の会長になりました。

こうしたチャンスを与えていただき、とても感謝しています。今後一年間、雲日大学生協力会の仕事、特に春蕾クラスでの日本語授業のボランティアがスムーズにいくよう、さらにメンバーを募集します。また、雲日大学生の交流を深めるためのいろいろなイベントを開き、日本の大学生と直接対話して、日本への理解をもっと深めようと思います。雲南の各大学間のメンバー交流も活発にします。

これからも日々精進できるよう頑張ります。一年間、ご協力をお願いします。

（雲南師範大学 周婧怡）

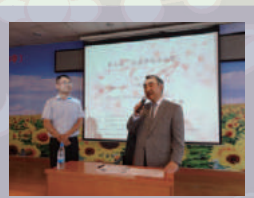
フォーラム「未来を創る」でも大活躍してくれた、雲日国際大学生協力会のメンバー

第2回「日本をもっと知りたい!」大学生フォーラム&第5回「夢は叶う」講演会

—講師・会員 三木秀隆さん—

5月、雲南大学滇池学院の3年生と、「25の小さな夢基金」で支援する高校生に向けて2つの講演会が開かれました。講師は長年にわたり上海で医療ビジネスを展開しているメディネットインターナショナル㈱の三木秀隆社長です。大学生に対しては医療と上海日系企業の現状について、高校生には夢を叶えた歴代講師の方々と三木さん自身の努力の経緯をお話いただきました。

三木さんは講演後、「通訳を介しての講演でわかりにくい部分があったにも関わらず、最後に多くの質問が来たことに驚きとうれしさを感じました。私は生徒さんたちから多くの夢をもらい、セカンドライフの糧として過ごしていくことができます。協会会費は私にとって人生の中で一番役に立つ授業料ではないでしょうか」と語ってくれました。



（上）「夢は叶う」と伝える三木さん
（中）大学3年生は将来を真剣に考える時期
（下）講演を聴いて将来への希望を新たにしました

講演会の感想

三木先生の講演を聞いて、たくさんの医学に関する知識を得ることができました。チーム医療が求められているのは、

①医学の進歩による治療の高度化、複雑化
②患者の医療に対する期待の高まり
③経済の低迷や社会の高齢化により医療の効率化が求められている、

などの理由があると知りました。

また、製薬会社や健康食品は今後大きな発展の可能性を秘めています。専門的なリハビリも大きなマーケットです。大学生の私たちは、このような新しい領域を将来の仕事として選択できるのです。就職が難しいというより、私たちの視野が狭いのです。今回、将来の仕事に対し、新しい選択肢を得ることができました。

また、日本企業の面接のテクニックについて学びました。面接には印象が大切で、いい印象を残すには心理学の知識が必要です。また、リーダーには人事管理が重要です。就職には印象でだけでなく成績も大変重要です。

滇池学院３年生　豊奕雯さん

定時総会

第14回定時総会開催報告

5月15日、協会事務局で今年度第1回目となる役員顧問会が、6月15日には八王子市学園都市センターで第14回定時総会がそれぞれ開催されました。

定時総会は、議決権を有する会員数216名に対して出席会員数134名（内委任状出席112名含む）で定足数を満たし、全ての議案が満場一致で承認されました。

定時総会進行

1.開会のことば　片岡巌顧問
2.理事長挨拶、活動報告
　初鹿野惠蘭理事長
　（林則幸会員製作の映像を放映）
3.議長の選任　　議長:遠藤功理事
4.議事録署名者の選任
　議事録署名者:東郷浩会員・林則幸会員
5.報告事項 2013年度会務報告 遠藤功理事
6.議事
　第1号議案2013年度事業経過報告及び承認について　中村有里子理事
　第2号議案2013年度会計収支決算報告・会計監査報告及び承認について
　大鷲修平理事
　第3号議案2014年度事業計画案審議について　中村有里子理事
　第4号議案2014年度会計収支予算案審議について　大鷲修平理事

☆新任顧問ご挨拶
　都筑信顧問・竹内達顧問・安保尚子顧問・滝澤崇顧問
7.閉会のことば　竹内達顧問

【当日出席者（順不同・敬称略）】
【2014年度第1回役員顧問会】
初鹿野惠蘭・初鹿野薫・遠藤功・中村有里子（以上理事）村松健児・佃純誠（以上監事）東郷浩・片岡巌・新井淳一・竹内達（以上顧問）松田雄馬・丁勇軍（以上会員）滝澤崇・林則幸・上原正夫・高野優紀・吉成絢香（以上事務局）以上17名

【第14回定期総会】
初鹿野惠蘭・初鹿野薫・遠藤功・中村有里子・大鷲修平・桂正徳（以上理事）村松健児（以上監事）片岡巌・東郷浩・小澤文穂・安保尚子・都筑信・竹内達・滝澤崇（以上顧問）寺内明子・奈良脇光夫・松田雄馬・丁勇軍・奥脇弘久・但野紅美子・初鹿野仁・平田栄一・劉翠（以上会員）坂本仁（特別参加）林則幸・高野優紀（以上事務局）以上26名

新顧問

今までは年末の忘年会に一度だけ出て、初鹿野理事長の他、スタッフの皆さん、サポーターの皆さんと交流しておりましたが、この度、顧問にとの要請をいただいて、少しはお役に立てるように頑張りたいと思います。来年にはぜひ雲南省を訪れたいと思っております。

清水 雄輔
㈱キッツ名誉最高顧問

雲南情報発信

雲南をフィールドに ―環境分野で国際協力

田中貴さん(右)と雲南支部新スタッフ白瑪次木(左)

私は富栄養化が進行する滇池（テンチ、雲南省最大の淡水湖）の水環境改善に関する研究をしています。学部生の時から昆明が研究のフィールドで、修士課程の１年間を昆明で過ごし、今年の６月から昆明での研究生活が再び始まったばかりです。京都大学と交流協定のある昆明理工大学を拠点にして、サンプリングや実験を行う日々を送っています。昆明には日本人が非常に少ない上に、研究が忙しく、昆明にいて“日本”と関わりを持つことはありませんでした。そもそも JYFA の存在を知ったのは、昆明に出発する前に、東京で初鹿野理事長と知り合ったのがきっかけです。そして、ご縁で、私の妻が６月から JYFA の昆明事務所で働き始めたこともあり、妻の誘いで、６月の夢基金フォーラムに参加させて頂きました。日本側の支援によって、特に中国西部の雲南省が抱える深刻な格差問題を背景にもつ学生たちに、学習の機会を与える活動に非常に共感しました。一方で、学生達は日本に対する強い関心を持つようになり、このような活動が日中友好の発展へ貢献することを期待しています。今後も JYFA の活動に微力ながらお役に立てるよう昆明からお手伝いしたいと思います。

田中 貴
京都大学大学院農学研究科 博士後期課程
日本学術振興会特別研究員（DC1）

イベント報告

さいたま市「国際友好フェア2014」

多くの来場者が足を止め、雲南に親しみました

埼玉県さいたま市で国際交流イベント、さいたま市「国際友好フェア2014」が開催され、協会大宮支部が出展しました。ゴールデンウィークの真ん中、新緑の美しい公園は２日間ともに晴天に恵まれました。会場は子供連れのご家族、お友達同士やグループの来場者で賑わいました。協会のブースでは、「子供たちの教育支援」「少数民族衣装の紹介」「雲南と日本との類似点や歴史的関係」等々を中心にご説明しました。今年は昨年よりボランティアも増え、明るい雰囲気の中で楽しい２日間を終えました。

（大宮支部・鳥羽清弘）

日時：2014年5月3日、4日
場所：さいたま市土呂、市民の森、見沼グリーンセンター
ボランティア協力（順不同・敬称略）：川口邦夫、大泉国雄、市川由美子、高橋福子、白石誠、青柳茂樹、佐藤正典、横山晋、高蓓、丸田智代、服部恵美子、久継智弘、李峰、楊林梅、鳥羽清弘、寺内明子

「笑顔を君に」in JICA地球ひろば

全国巡回写真展「笑顔を君に」の第17回目をJICA地球ひろばで開催しました。国際協力関係の来場者が多いJICAで、協会の活動を紹介するいい機会となりました。

ご覧になった皆様の感想も「笑顔がいいね」「厳しい環境で頑張っているね」等いただきました。

日時：7月14日～7月26日
場所：JICA地球ひろば
ボランティア協力（順不同、敬称略）：滝澤崇、上原正夫、林則幸

町田市の皆様と交流！

6月14日、町田国際交流センターで初鹿野理事長が講演をし、一般の市民の皆様に広く活動を知って頂く機会となりました。参加者から沢山の共感が寄せられ、講演会後には「25の小さな夢基金」会員とボランティアへの申し込みを頂きました。また、他団体と合同での講演会開催だったので、異なる地域で活動するNGO間で活動内容や意見を共有する貴重な場となりました。

参加者の皆様から、活動に対する熱い共感の声をいただきました

講演する初鹿野理事長

日時：2014年6月14日
場所：町田市民フォーラム
ボランティア（敬称略）：滝澤崇

イベント情報

■通算第5回 合同写真展「アジアの子どもたち」
日時：8月24日㈰～26日㈫
場所：かながわ県民ホール（神奈川県横浜市）

■アジア未来への人材プロジェクト 第1回日雲大学生交流スタディーツアー
日時：8月29日㈮～9月6日㈯
場所：雲南省昆明市他

■グローバルフェスタJAPAN2014
日時：10月4日㈯、10月5日㈰
場所：日比谷公園（東京都千代田区）

■第10回 雲南省少数民族貧困児童教育支援チャリティーゴルフコンペ
日時：10月11日㈯
場所：大月カントリークラブ（山梨県大月市）

■第3回日本文化理解研修
日時：10月下旬 ※予定
場所：雲南省昆明市

■第24校目 開校式ふれあいの旅
日時：11月上旬 ※予定
場所：雲南省臨滄市他

■雲南省招商局来日投資誘致説明会
日時：11月11日㈫、11月14日㈮
場所：東京、大阪

■第35回八王子いちょうまつり
日時：11月15日㈯、11月16日㈰
場所：並木町郵便局横 ※協会出展場所（東京都八王子市）

■第14回チャリティー忘年会 日本と雲南少数民族友好の夕べ
日時：12月20日㈯
場所：ビヤステーション恵比寿（東京都渋谷区）

15周年記念式典開催予定

日時：2015年7月19日㈰ ※予定
場所：京王プラザホテル（新宿）

来年で日本雲南聯誼協会は15周年を迎えます。これまでの活動を振り返りつつ、未来への決意を新たにする機会です。皆さまにお会いできることを楽しみにしています！

編集後記

「25の小さな夢基金」で支援させてもらっていた子が高校を卒業し、最後の手紙をもらいました。以前もらった手紙には、リルケの詩が好きで将来は本屋さんになりたいと書いていました。今回、支援校のレポートにもあるように、雲南の山間部では学校の図書室にさえ本があまりないようです。スマホに手を伸ばせば、あふれるほどの情報に触れられる日本の生活とは全く違います。ただ、電車に乗ってゲームに夢中な若者を見ると、貴重な本を繰り返し読み、想像の翼を羽ばたかせている雲南の子どもたちの方が幸せなのかも、と感じたりもします。

（編集長・木本一彰）